



緑が丘で駄菓子・おもちゃ屋を営む元ミニ四駆チャンプや、自身が開発した脳トレパズルを楽しんでもらおうと伊賀市から参加した男性、蔵持町からは、体育館に美声を響かせたプロ音楽家などなど…。市内外の地域のおじちゃん、おばちゃん、そして子どもたちの「やってみたい!」を一つずつ紡いだ蔵持市民センター祭。多彩な企画が立ち並び、まさに万博のような催しとなりました。

「地区内外から生き生きした人たちが集まり、学生ボランティアの皆さんと一緒に盛り上げてくれました。今後も、名張市全体が元気になる催しにしていきたい」と蔵持市民センター長の三瀬幸綱さん。まるっと2日間、子どもからお年寄りまで笑顔が絶えることはありませんでした。



ほか、神奈川県や鳥取県など全国各地から16チームが出場。約200人の参加者と応援に来てくれた皆さんで、会場は熱気に包まれました。

A photograph showing two rescue workers in orange uniforms and helmets rappelling down a rope. They are carrying a white stretcher with a patient on it. The worker in the foreground is wearing a helmet with a camera and is holding the rope. The worker in the background is also wearing a helmet and is holding the rope. They are both wearing orange pants and blue gloves. The background shows a building and some greenery.



まちを元気にしたいと、全国女性団体連絡協議会支部・三重県女性団体連絡協議会による「名張音頭総踊り大会」が、11月30日、名張小学校 体育館で開催されました。

赤ちゃんからお年寄りまで総勢約900人が参加。チームを作るゲームや、防災についてのクイズなどを楽しんだあと、参加者全員で総踊り！主催した梶田淑子会長は「住民みんなで盛り上げて、市の活性化につなげたいと思い開催した。イベントでの交流を通して、人のつながりの大切さや防災についても知ってもらいたかった」と話してくれました。